

何でも語るコーナー

第15回:考えると言うことは・・・

考えると言うことは・・・

05/6/22

考えてみる・・・みれる人間は幸せなものだ。そして、それを文字やら図形やらで他へ伝えることが出来る人間は尚、幸せだとは思わないだろうか？

僕は、今”思い出”と言うものについて考えてみる。たとえば・・・

「元の時代のものは、やはり元の時代のものだ」

と、簡単な言葉で主張できる。これを聴いたあなた方は、自分なりの意見をぶつけることも出来るし、共感も出来る。つくづく目と口は便利なものだ。

次に、思い出に対する僕の意見を上げてみよう。

当時の僕は当時の僕なんです。それを、今の僕は遠目で見ることしかできません。

タイムマシンができて、僕は当時の僕には会いたくないです。当時の思い出が無くなったら、当時の僕は消えてしまいます。2度と現れないでしょうね。思い出は自然と美化されてしまいますから。

思い出探しもいいですが、思い出は思い出で大切にしまっておきたいものです。鮮明に覚えている分、大事なものを失いやすいですからね。

この文章は、考えると言うことに、感性と言うものを加味した文章に仕上げたつもりだ。さて、感性と言う道具は誰でも使えるものだろうか？

そう、そこが重要なのだ。いつも思うことなのだが・・・文理の区別こそ人間の一番愚かしい行為だ。人間性を区分けするのがかっこいいことか？かっこよくは無いらろう。では何故に、二者択一を強要するのだ？何の意味がある？文型だから文型の勉強、理系だから理系の勉強をするしかないのか？時間があれば両方やるべきか？あるいは、もっと片方を極めるべきか？

文理と言う型にはまって考えると、極端な人間になる。時間こそが絶対軸なのだから、ここで出来ることは無限とはいえない。人間を待つものは確実な死なのだから・・・。では、理系と文系を意識しないこととはどういうことか・・・当時の僕の意見を載せておこう。

ちなみに、当時、この文を書いた僕は理系でいるのが嫌で、文学的な表現と言うものを意識しすぎていた。

僕は理系人間なのですが、決して感性を失いたくはありませんよ。ひたすら”科学的におかしい”と言い張る未熟者がいますが、それは、科学者ならびに貴方の科学力が乏しいせいなのです。未解決なものは”超科学的”と片付けておきながら、ちょっと科学で説明できそうなことはひたすら科学の枠に収めようとする、それがイカンのです。どういう神経しているのですか？あなたたちは、それでは前が見えませんか。

えらそうなことを言うようですが、科学は所詮、道具なのです。科学者は、道具を使って、新しい道具を作ります。それが、体系的に作られた「科学法則」なのです。たしかに、科学で解き明かされる問題もありますが、知識も乏しいうちから公式に当てはめるような人になってはいけません。そうでないと、先人の哲学者を全て否定することになります。それでいいのならいいですが。

科学は限界を定義するか、と言う質問・・・すなわち、科学で説明できないことはあるかという問いかけに対し、僕ははっきり”Yes”と答えたい。なぜなら、人間は人間だから。宇宙が人間を作ったのなら、人間が宇宙の枠を飛び越えるなど無理な話です。これは、物事を諦めるというような話ではありません。倫理的によろしくないということでもありません。

つまりね・・・科学で説明できなくても良いじゃないですか。超自然的なことは「そういうことがある」という事実がわかればね。人類はそういうことの原因を探って、”道具・知恵”として体系付けてきました。別に、UF0を信じる人を否定するも無く、UF0を否定するに十分な説明をしないのに「ありえない」と言い張る科学者を否定するもない。

でも、金星人がいたって良いじゃないですか。火星人が知コッちゃんでもいいじゃないですか。大切なのは感性があるかということなんです。道具の使い方を知っていればサルでもカラスでも道具を使って何かをすることはできます。

しかし、感性は知恵とか道具とかの次元での話ではありません。60億人の人間がいたって、アインシュタインのような発想ができた人は誰一人としていないのです。それが証拠に、当時のアインシュタインの相対論を理解できる人は世界に数人といなかったそうですね。それに、アインシュタインの公式を導き出せた人もアインシュタイン以前には居なかった。発見して発表しない科学者など、よほどの事情がない限りいませんから。

”理系”と言う言葉は、感性の乏しい人のことをいうんでしょう。”文系”と言う言葉は、道具を知らない人のことを言うのでしょう。

どっちでもない・・・すなわち、どっちでもある”文理系”みたいな人になるのが、人生を最高に楽しむコツなのでしょうね？

で、ここから暴走が始まる。

そして、悪い人たちもいる。例えば・・・

”督促はがき”等と言う、腐った金儲けをしたりするおばかさんは、とっととやめなさい。

人のものを奪って平気でいられる泥棒さん。あなた馬鹿です。やめなさい。

歩きタバコをして、禁煙席でタバコをすって、肺がんになったから医者に泣きすがるスモーカーの人、あなたは馬鹿だからいけないのです。反省しなさい。肺がんで死のうが、誰も同情しません。

タバコをすうのなら好きにするがいいでしょう。しかし、マナーをわきまなさい。すいたいのならすっていい場所ですいなさい。周りの人のほうが不衛生になることを知らないのですか？知らないですむわけではないですが、知らないならまだいい。知っていてそっぽを向く人は一番卑怯だ。最低だ。よくこれまで人生を過ごしてこれたものです。

そういう人は典型的な日本人だ。結局、周りの人の迷惑そうな顔を見るわけでもなく死んでいくのです。

そういった人の誰しもが世の中のためになったり、人を幸せにできないという固定観念で見ているのではないです。断っておきます。

しかし、本当にそういう大人が多いのです。「俺は俺だ」と言い張るならそれで結構。しかし、あなたのようになるくらいだったら、馬鹿でいたほうがいい。感性豊かな馬鹿でいい。貴方が勝手にしろというのなら、勝手にします。絶対に貴方を手本にはしません。死んでも嫌です。こっちから願い下げです。

「人間転ぶのが恥ずかしいんじゃない。立ち上がらないのが恥ずかしいんだ」という言葉があり

ますが、その通りでしょう。

どんな人だって転びますよ。むしろ、転ばない人など逆に冷徹な人間です。何十年も生きてきて失敗のない人などいません。「いいや、いる」という人、心の底から本当にそんな風に思っていますか？僕はこれ以上、何も言いません。

よく聞く「反省するくらいなら最初からやるな」と言う言葉や、「普通になるのはえらくはない」といった言葉は、何の評価にも値しません。

じゃあ、貴方はどうなんですか？人に言えるほど失敗のない理想な人なんですか？違うでしょう。そうならごめんなさい。謝ります。

しかし、立ち上がる人にそう言う言葉をかけるのは何の意味にもなりません。屈強になる？愛の鞭？何考えているんですか？

言っても立ち上がらない人は、説得するべきでしょう。立ち上がったのなら、それは立派です。むしろ、失敗の無かったように振舞っている貴方のほうが恥ずかしい。何度もいいますが、そうでないならそう言う言葉をかけてもいいでしょう。言うこととやることが同じなんですから。隠し事はありません。

結局、100人いれば100人の考え方があるけど、根本的には同じ道を歩んできているのです。楽しいこと、辛いこと、悲しいこと、むなしいこと・・・

いろんな経験をつみ、いろんな考えから物事を見て、自分なりの考えをもち、より豊かな人間になる、それを後世の人に教育する、それが大人でしょう？それが生きる目的でしょう？

夢を追い求めるのは結構。いいことです。否定もしないし、どこかにやってしまうこともしません。

人生楽しければいいのです。それも結構。

でも、ふっと考えたら周りにそう人はいますか？みんなつかれきった顔をしているでしょう？疲れる、つまり人生にです。

日本人の2人に一人がうつ病なのはご存知ですか？それから分かるように、そう言うカオスであって法則化された究極に意味のわからない渦日本に流されているから変な人間になるのです。

でも、決して政治家が悪いとか、大人が悪いとかという話ではありません。悪くなるのは、貴方のせいなのです。たしかに、親が悪いとか、先生が悪いとか、あります。そうです。

でも、人間です。本来、100年位前まで、自然に生きてこれたのですから、貴方だって何年も生きてれば、周りの人の顔とか考えとか・・・分かるでしょう？

それが分からないのが本当に馬鹿なのですよ。ばか者なのですよ。それは、人生に諦めてしまうこと。自覚を持って生きることをしない人たちなのです。

だから、貴方たちに最後の警告をします。別に、変わらなくて結構。僕の理論が正しくないかどうかは、他の人何百人、何千人と比べたら分かるでしょう。

ここで変わらないのなら、貴方は「ざ・キングオブ・ばか」です。厳しいから最後の警告なのです。

もう少し考えてみてください。言うことはこれ以上・・・ありません。

と、当時の文章はここで終わっている。後半の暴走は、まるで譲歩が無いのがわかるよね？

さて、独りでWEBなどに主張をする際に大事になるのは、人に見てもらうことを意識することだ。

勝手な主張をしてばかりいても、共感者にしか意見をもらえないだろう。反論者には罵声を浴びさせられることになる。

こうならないためには、考えると言うことが必要で、それを言葉・・・いや、文章にするためには相当なテクニックが必要だ。

譲歩と主張・・・これは、議論の基本だ。で、文章を書くには、文章の形式によって、起承転結などの文章形式をとったりするわけだが、主張の場合、例を提示したり、主張をしたり、譲歩をしたり、客観的な意見を述べたりと、とにかく忙しい。

で・・・おしまい♪

記事の作成者

この記事は、管理人のOIDUSが作成しました。

このページへのリンクはフリーです。転載も許可しています。転載の際は内容を変えないようお願いいたします。また、このページを利用して何かおきても、作成者のOIDUSは一切、責を負いません。自己責任でご利用くださいネ！（なんと無責任な・・・）

この記事に関する質問、苦情、要求などがございましたら・・・

oiduscom@yahoo.co.jp

宛てにメールをお寄せください。